（別紙４）

公表

事業所における自己評価総括表(保育所等訪問支援)

○事業所名	社会福祉法人恵友会　こども発達支援センターぴーち			
○保護者評価実施期間	令和6年12月3日		～	令和7年1月17日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	50	（回答者数）	34
○従業者評価実施期間	令和6年12月3日		～	令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月3日		～	2025年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	14	（回答数）	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種支援	お子さんの状況や訪問支援に入る際の課題・活動にあわせて、保育士や言語聴覚士、心理師、作業療法士などの職種でその都度園と調整しながら支援に行かせてもらっている。	今度もお子さんの状や況活動内容・課題にあわせて、職員間で連携して取り組んでいく。多方面からの支援方法を伝え、よりよい支援につなげていく。
2	訪問支援時以外での電話相談	訪問支援に入った時だけではなく、必要であればいつでも電話などで相談を受けられる体制をとっている。実際に訪問支援利用開始時前から、現状を伺い、今からできることなどをその都度伝えていくことで、直接支援に入る前の段階で効果が出ていることもある。	今後もお子さんや園の現状を確認し、必要なタイミングで直接支援・間接支援へつなげていくようにする。電話での相談時でも的確に状況を把握し、提案していけるよう、職員の資質向上を高めていく。
3	移行支援	新規入園時には、その子の特性と関わり方を情報提供書として、事前に幼稚園や保育園に提出することで、落ち着ける環境調整や適切な支援の仕方を引き継ぎ、安心して移行していけるようにしている。	今度もお子さんの状や況活動内容・課題にあわせて、職員間で連携して取り組んでいく。さまざまなパターンの支援方法を伝え、場面や職員体制にあった支援をその都度選びやすいようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援者のスキル	保育園・幼稚園の職員体制や園の流れや考え方に沿った支援方法が提案できない時がある。	勉強会や研修を通して、訪問支援員の資質向上を高めていくとともに、児童発達支援事業を併用しているお子さんの様子や支援方法の情報共有し、園にあった支援方法を一緒に相談しながら構築できるようにしていく。
2	訪問支援日（時間）の日程調整	児童発達支援事業も併用して利用しているお子さんがいるので、幼稚園や保育園にお子さんが通っている日の中から訪問支援日を調整するのが難しいこともある。	園の状況にあわせて、訪問支援に行けるよう日程調整を早めに行っていく。訪問支援に行ける職員を増やし、訪問日や訪問時間の調整を行いやすいように意識していく。
3	支援計画書についての情報共有	訪問支援計画書の内容をゆっくり園の先生と見る時間をとることが難しいので、支援目的・方法についての情報共有を十分に出来ていないのを感じる。	支援計画の見直しの時期に、園の意向や思いを確認するとともに、支援計画に盛り込むことで情報共有を図っていく。また、訪問支援時は、お子さんがいる状態でゆっくり先生とお話しする時間をとりづらいので、訪問支援時以外でも電話などでいつでも相談しやすい環境を整えていく。